

アカルイミライのために ～「地域共生社会」の実現に向けて

ぶろっさむ 武井 剛
2021年11月29日作成

1. 今、世界は大きな**転換期**に・・・



これから社会が直面するであろう課題

<世界>

- ・情報通信(IoT)、AI技術等の普及とグローバリゼーションのさらなる加速
- ・人口爆発と環境破壊により資源や食料が枯渇し、国際秩序が不安定化
→地域間や社会階層における経済格差が拡大 →世界共通目標=SDGs
- ・「有事」における意思決定のあり方を巡る混乱 →「民主主義」の再考

<日本>

- ・少子高齢化、人口減少、労働問題、移民政策などが本格化
- ・国内の格差よりも、他国と比べた場合の国際競争力の低下が課題に
→エネルギーや産業の構造改革は進むのか？子育てや教育、介護や社会保障は？
- ・「国民」の範囲をどのように定め「基本的人権」の保障をどうするのか？

私たちの暮らしに起こるであろう変化

- ・ 物流系ドライバーや保育・療育、医療・介護等の従事者の慢性的不足？
- ・ 高齢者世帯を中心に、生活上の「困りごと」を抱えた人たちが増える
- ・ 空き家や耕作放棄地の増加 → 不法投棄や犯罪、虫害・獣害の原因に
- ・ 社会インフラや経済活動の「自動化（ロボット・AI化）」「デジタル化」
- ・ 「情報」や「現実」への接し方も変わる → バーチャルによるリアルの浸食

【参考】習志野市の場合（令和3年9月30日時点）

人口：175,672人（うち65歳以上：41,257人　高齢化率：23.5%）

※60歳以上：50,097人（全体の28.5%）

※19歳以下：30,727人（全体の17.5%）

※20歳～59歳：94,848人（全体の54.0%）

Society 1. 0

狩猟社会



Society 2. 0

農耕社会



Society 3. 0

工業社会



Society 4. 0

情報社会



Society 5. 0

新たな社会

サイバー空間（仮想空間）と
フィジカル空間（現実空間）
を高度に融合させたシステム
により経済発展と社会的課題
の解決を両立する、人間中心
の社会

（第5期科学技術基本計画より）

ミライはアカルイ？

イノベーションで創出される**新たな価値**により、格差なくニーズに対応した
モノやサービスを提供することで、**経済発展と社会的課題を解決**を両立



予防検診・ロボット介護



Society 5.0

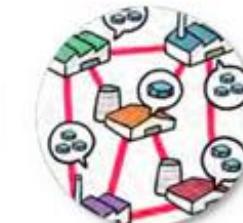


エネルギーの多様化・地産地消



農作業の自動化・最適な配送

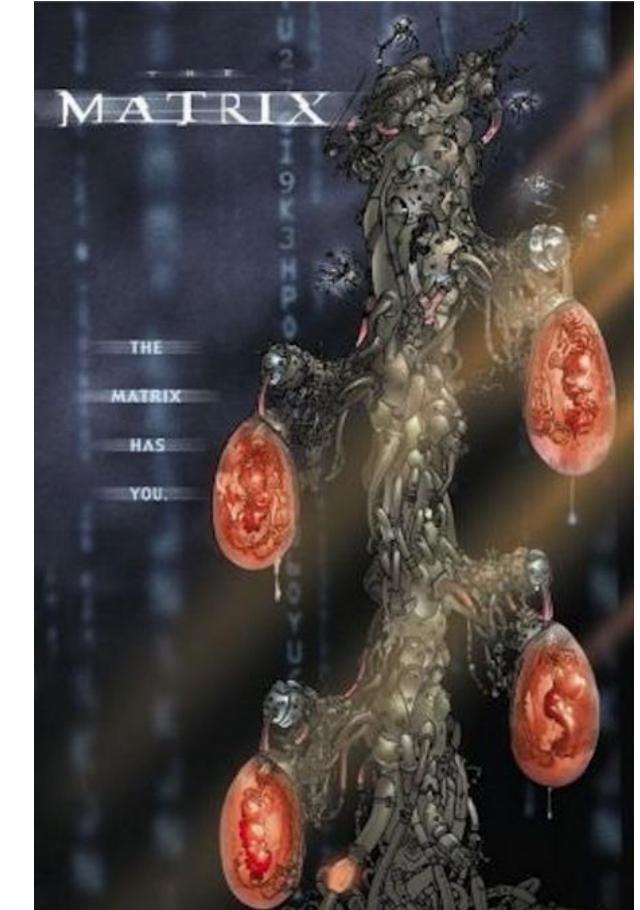
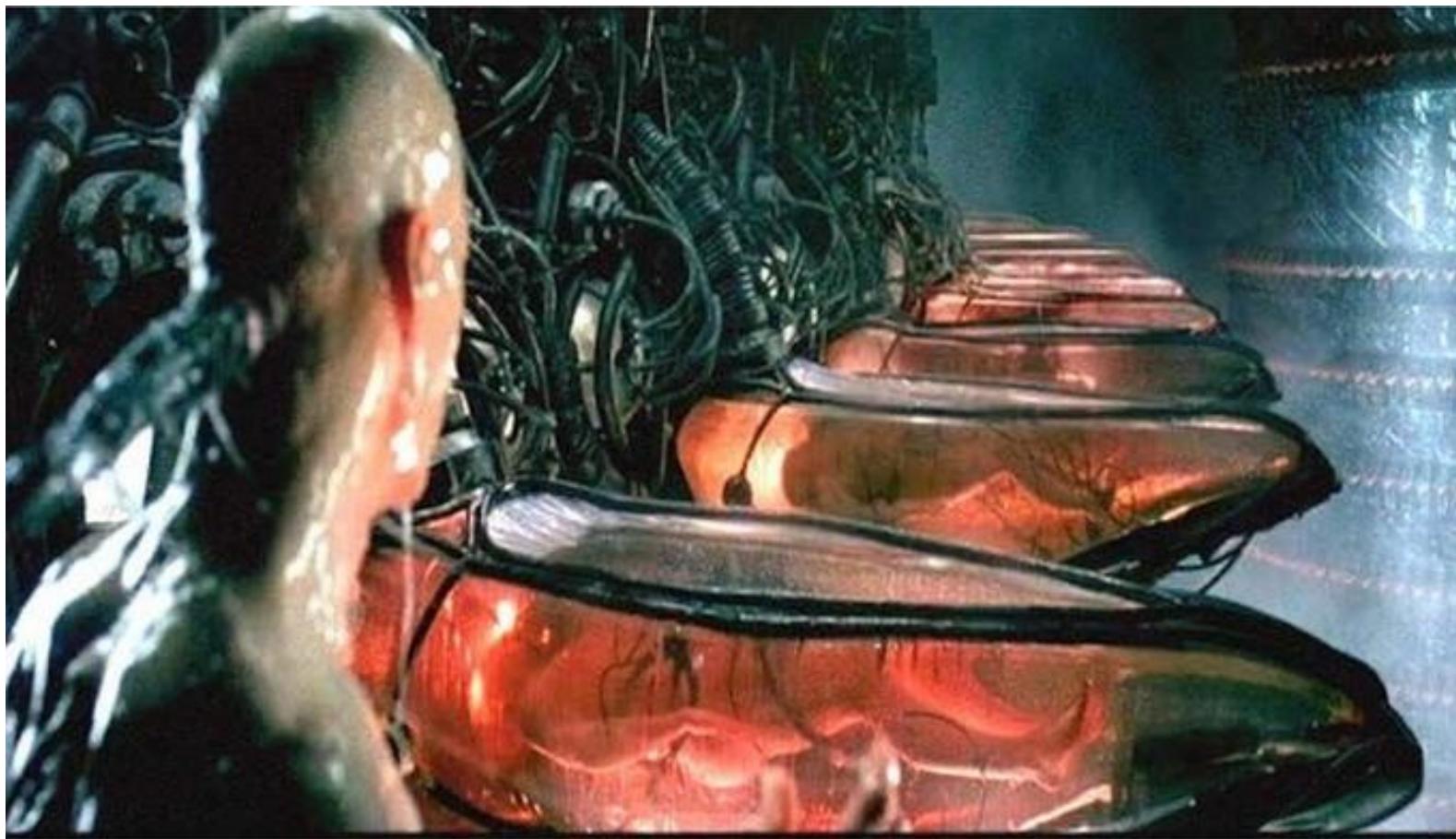
食料の増産・ロスの削減



最適なバリューチェーン・自動生産

持続可能な产业化の推進・人手不足解消

それともディストピア？



2. それでも、私たちが人間である限り…

- 人間の“間”的部分。**豊かな「関係性」を生きること。**
- 様々なバックボーンや事情を持った「他者」の価値観を尊重し、かかわり合うことの豊かさ。**「多様性」の肯定。**
- 「他者」にとっての必要性から生まれるものが「仕事」。私たちは、**「はたくこと」を通じて、その豊かさに触れる**ことができる。

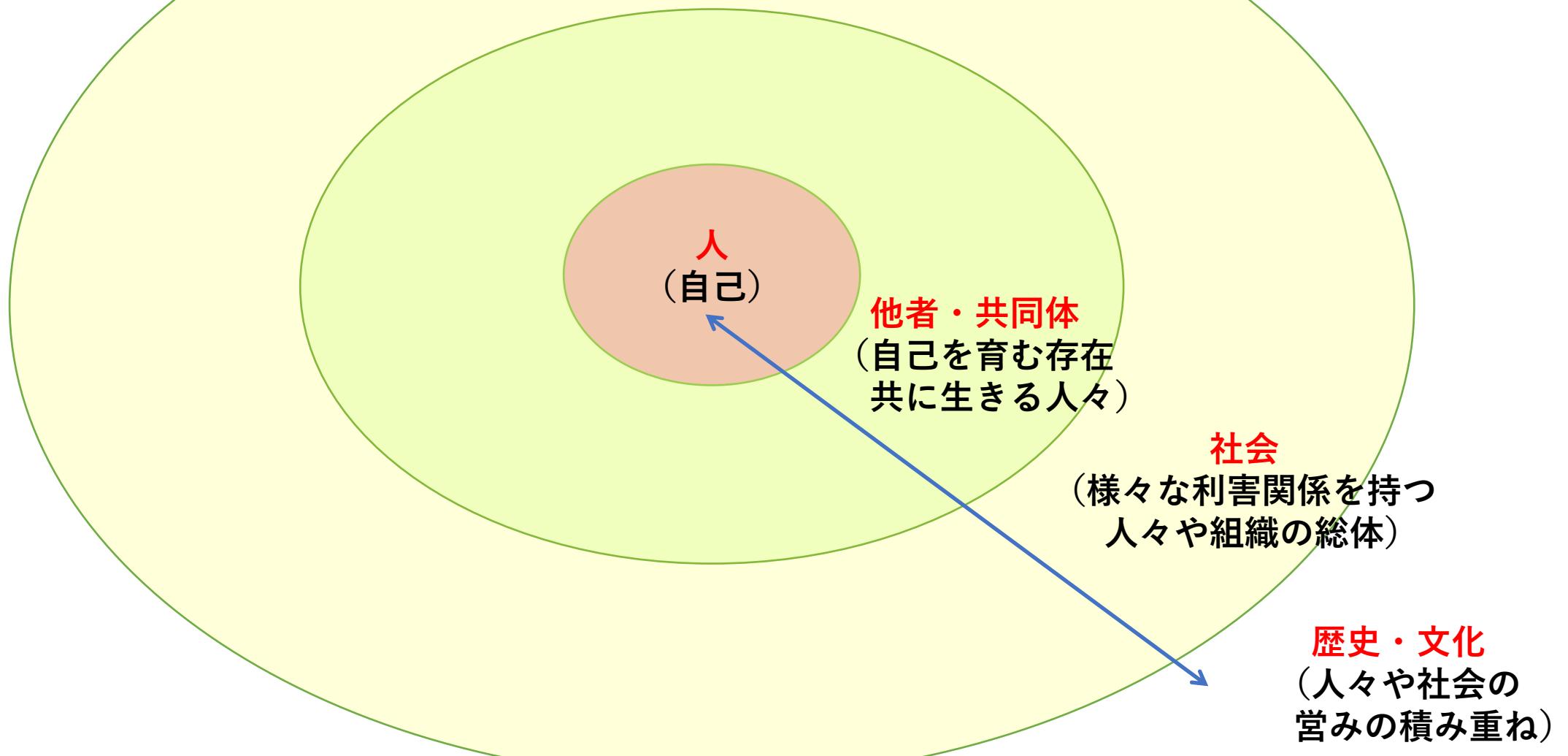


- これから様々な職業がロボットやAIに置き換わっていったとしても、「**はたくこと**」を通じて得られる人と人との**「関係性」**を私たちが手放すとはないはず。
- 人と人がかかわり**「生きること・暮らすこと」を支え合う**〈介護〉〈福祉〉や〈生活支援〉という「**仕事**」は残る。

「はらく」 = 「働く」 = 人が動く

⇒ 他者や共同体、社会に影響を及ぼす

⇒ 歴史や文化と繋がる、新たに生み出す



3. 地域共生社会の実現に向けて

- **社会的包摶** (Social Inclusion) ←→ **社会的排除** (Social Exclusion)

全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現に繋げるよう「社会の構成員」として包み、支え合う考え

- **社会的障壁 (social barrier) の除去**

→社会的、制度的、物理的、心理的なバリアフリー

→人間尊重 (差別解消、合理的配慮、虐待防止等)

- **誰もが支え合う地域づくり**

地域住民や地域の多様な主体が、分野や属性の壁を越えて協働

例) 自治会・町会などの活動、ソーシャル・ビジネスによる問題解決、中間支援団体やNPO等による支援、産学官民の連携・協働など

皆が共に支え合う暮らし

家族・親族間の助け合い

住民自治やNPOなどによる非公的サービス

- 健康管理や介護予防など自分のことを見つめ自分でする
- 家族で支え合う
- 自費で民間サービスを利用する

自らの選択・自己負担

自助

保険料などの負担

共助

- 介護保険や医療保険などの社会保険制度及びサービス

社会保障制度

- 当事者団体による取組
- 高齢者によるボランティア・就労

- ボランティア活動
- 住民組織の活動

相互の自発的な支え合い

互助

- ボランティア・住民組織の活動への公的支援

税金による公的負担

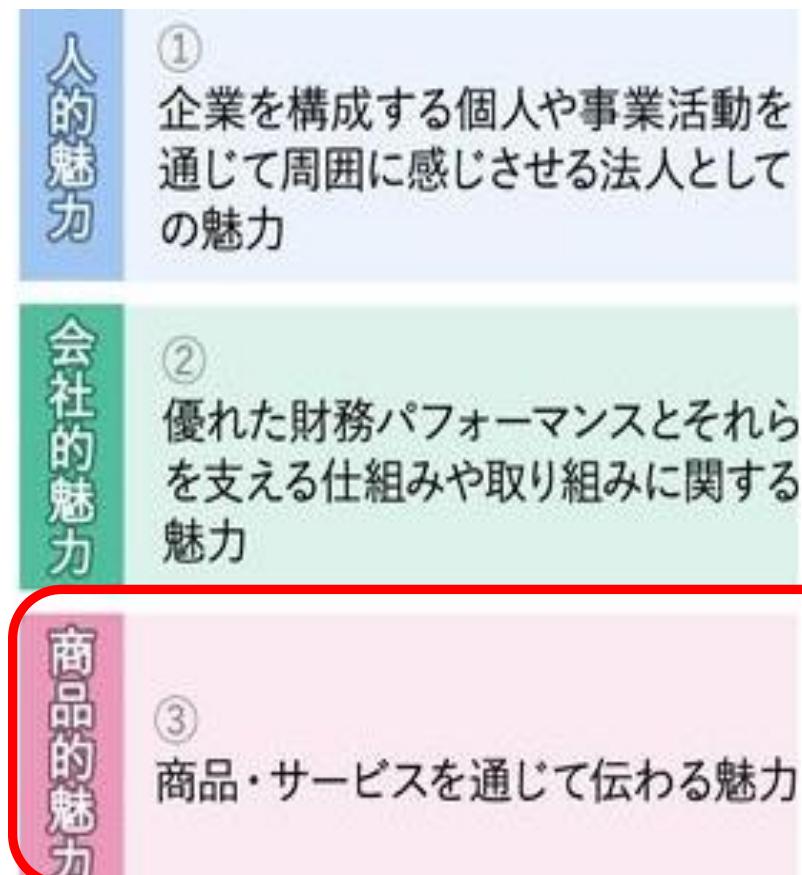
公助

- 生活保護
- 障がい福祉サービス
- 高齢者・障がい者・児童の虐待対応・措置

社会福祉制度

4. 組織（企業）の社会的役割・魅力

魅力の三つの要素



ヒューマンレベル

- ・社会的役割・使命 → 経営理念、ビジョン・方針
- ・時を守る、場を清める、礼を正す
- ・倫理観、マナー、目配り気配り心配り
→ 「働く意識」の向上（心のコップが上向き）

マネジメントレベル

- ・労働の成果を上げ、利益を出し続ける仕組み
- ・労働環境の整備、公平な採用・教育・評価
- ・組織の成員が共に育っていける環境
→ 「公器」としての組織の社会的価値の向上

サービス・ホスピタリティレベル

- ・相談しやすさ、安心感、商品やサービスの品質
- ・知識の豊富さ、技術力の高さ（専門性）
- ・お客様の事情に合わせた柔軟な対応、課題解決
→ 価値の向上、顧客満足・感動、リピート率UP!

就労系障害福祉サービスの2種類の 顧客（ステークホルダー）

1. 福祉サービス（福祉事業）のお客様
2. 生産活動（就労支援事業）のお客様

顧客1：福祉サービス（福祉事業）のお客様

- ・利用者・・・地域で暮らし、支援を受けながら働き続けたいご本人
- ・保護者等・・・利用者の家族・親族、成年後見人、相談支援専門員等
- ・行政機関・・・福祉サービスの支給決定機関である自治体

求められるサービス・ホスピタリティレベル

- ・相談のしやすさ、安心感
- ・商品やサービスの品質
- ・知識の豊富さ、技術力の高さ（専門性）
- ・お客様の事情に合わせた柔軟な対応、課題解決

→**価値の向上、顧客満足・感動、リピート率UP!**

評価のポイント（例）

- ・清潔感のある恰好、笑顔、丁寧な言葉づかい
- ・障害特性（困りごと）の理解・共感→配慮
～「できない」ことをその人のせいにしない
- ・ご本人の意思や力を引き出す（エンパワメント）
- ・適切な役割と報酬、経済・社会的自立の支援
- ・ご家族などご本人とかかわる人の負担軽減

顧客2：生産活動（就労支援事業）のお客様

- ・地域社会・・・地元町会・自治会や半径3~5km圏内の住人、企業
- ・行政組織・・・地元自治体（習志野市）や県内自治体、県、国
- ・サポーター・・・経営理念や活動に賛同して応援してくださる方々

求められるサービス・ホスピタリティレベル

- ・相談のしやすさ、安心感
- ・商品やサービスの品質
- ・知識の豊富さ、技術力の高さ（専門性）
- ・お客様の事情に合わせた柔軟な対応、課題解決

→**価値の向上、顧客満足・感動、リピート率UP!**

評価のポイント（例）

- ・清涼感のある恰好、笑顔、丁寧な言葉づかい
- ・ミスのない正確な仕事、正直な報告
～例えば草の抜きかた、チラシの折り方、入れ方など
- ・納期厳守、明朗会計（納得感のある価格説明）
- ・ひと手間・ひと工夫、“ひとつ上の”サービス（期待値100%→満足、期待値110%以上→感動）
- ・それらの結果としてのお客様の「課題」解決

5. ご本人主体の支援のを行うポイント

1. 「権利（人権）擁護」「エンパワメント」の視点
2. 「障害特性」 = その人固有の「困りごと」の理解
3. 「差別」と「合理的配慮」について学ぶ
4. 「虐待」が起こりづらい環境を整える
5. これらを意識した個別の支援方針・計画を立て、
チームとして統一したかかわりを実施する。

【参考1】差別について

ステレオタイプ (先入観・思い込み)	特定の集団や個人に対して、ある程度の人たちの間で共通に受け入れられている単純化された固定観念。 例) 男性→意志や力が強い、女性→共感力が高い
偏見 (バイアス)	ステレオタイプに従って十分な根拠なしに持たれる偏った見方や意見 (時にマイナスの感情を伴う) 例) 男性→積極的、乱暴 女性→受け身、慎ましい
区別、巣廻・優遇 (格差)	一定の基準に基づき人を区分け (カテゴライズ) 、扱いに違いを設けること。※その根拠が問われる
差別、排除 (不公平・不平等)	先入観や偏見をもとに、特定の集団や個人に対して、他と比べて不当な差を設けたり、分け隔てること。

差別の基本的な流れは・・・

- ・社会的地位や権利、力 大→小
- ・人数、資源 多→少

そのため、
少数民族や障がい者のある人達、
その時代の医学で治療が難しい
人達、性的マイノリティなどは、
どの社会でも差別に合いやすい。

→社会的な対応の必要性



【参考2】合理的配慮とは

- 障がいのある人がその他の人と平等に人権を享受し行使できるよう、一人一人の特徴や場面に応じて発生する障がい・困難さを取り除くための個別の調整や変更のこと。
- 「障害者の権利に関する条約」（2006年12月13日に国連総会で採択された21世紀最初の人権条約）の中でもその必要性が繰り返し明記。
- 根拠となる日本の法律
「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（2016年4月施行）
「障害者の雇用の促進等に関する法律」（2020年4月改正）

合理的配慮の提供例



読み書きが困難な方に

文字の読み書きが困難な方が、タブレットや音声読み上げソフトで学習できるようにする。



移動が困難な方に

肢体不自由の方が自力で移動できない場所に、スロープやエレベーターを設置する。



指示理解が困難な方に

複雑な指示理解が難しい方に、指示を1つずつ分けて伝えたり、イラストを駆使して説明する。



疲労・緊張しやすい方に

疲労や緊張が大きい方のために、休憩スペースを設けたり、業務時間等を調整する。

【参考3】虐待とは

(日本語) 虐「むごく扱う」・待「あしらう」

(英 語) abuse (ab-「離れて」・use「使う」)

つまり、

本質からズレた「誤ったかかわり」「(力の) 亂用・悪用」のこと。

立場の強い者や力のある者が、自分よりも弱い者や不利な立場にある者に対して、力の使い方を間違ったり、接し方を誤ったとき、虐待に繋がる。

つまり、その背後には差別と同根の問題が横たわっている。

しょうしゃけんり 障がい者の権利をまもるために



じぶん
できることは自分でして、
できないことはささえてもらえる。
きちんと食べて、清潔に暮らせることは
安心の、すべての基本！

安心して暮らす！

のぞ
望んでいないのに、
からだ
体をさわられたり
はだかを見られることは、
じぶん
自分の心が
とても傷つくこと。
だから絶対、
ゆるさない！
がまんしない！



じしん 自信をもって い 生きる！



わからぬから怒鳴られる？
じぶん
失敗するからたたかれる？
どんな理由があつても
やっぱりそれは、まちがい。
じぶん
自分に自信をもつて
できることを、ふやしていきたいのに…

どこに住むか、
何をして暮らすか、
自分らしく生きるために
情報はとても大切。
じぶん
自分で相談できる相談機関は、
ぜひ、知っておきたい。



じぶん 自分で決める！



じりう
自立のために、お金は大切。
じぶん
自分のお金はどう使のか、
よく納得して決めたい。
お金の被害にあわないように
しんらい
信頼できる相談相手も
いるといい。

しょう 障がいが、あっても、なくても！

まとめとして

- 私たちの社会は、今、大きな転換期を迎えている。
「民主主義」や「基本的人権」といった近代社会を支える思想、
価値観が試されようとしている。
- 特に少子高齢化、人口減少と移民の増加が進むであろう日本では、
社会を構成する様々な成員が互いの価値観を認め合い、尊重し合い、
共に協力し合って生きていく、「地域共生社会」の実現が不可欠。
- 障がいのある人や社会的マイノリティの人たちが抱えている課題を
社会全体で取り組むべき「人間尊重」のための課題として捉えて、
その解決を図ることが、**私たちの<未来>を守ること**にも繋がる。

Look on the bright side !

